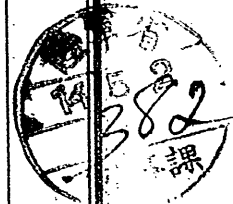




陸
軍

文
書

陸文書受領四三二七



興亞思想研究所設立計画案

萩原大佐

陸軍大臣
板垣征四郎閣下

昭和十四年四月 日

漢口軍特務部

陸軍歩兵大佐 萩原直之

謹啓

時下春暖ノ候益々御健勝ニ被爲涉奉慶賀候 陳者日支事變モ愈長期
作戦ニ入り申候ニ付テハ不省先ニ抗州特務機關長トシテ在職中ヨリ
強力ナル思想對策機關ノ急設ヲ痛感致居候處爾來雜務ニ追ハレ桂萬
今日ニ至リ候モ其必要ハ益々急迫ヲ感スルモノ有之茲ニ別册私案作
成御送付申上候間御高覽ノ上篤ト御檢討被下是非共設立完成スル様
特ニ御配慮相煩度懇願仕候
先ハ右貴意得申度候

勿々敬具

1660

0660

極秘

昭和十四年三月三十日

一、陸軍省特務部員より直轄

陸軍省

陸軍大臣の本軍ノ如キニ
陸軍省員ノ適当ナル部員一員ヲ
濶良等順序ノ終ノ申請ス

ヲ可ス

二、軍部員ノ認メタルナリヤ確カ

ク要ス

陸軍省
14.52
軍務課

1660

極秘

昭和十四年三月三十日

興亞思想研究所設立計劃 案

漢口軍特務部 萩原大佐



目次

一、設立趣旨	1
二、研究指導要目	3
三、本研究所所員ノ資格	4
四、設立要項	5
(一) 所屬	5
(二) 設立豫定期日	6
(三) 籌備參考事項	6
五、名稱	7
六、所在地	7
七、機構	8
八、維持費	11

九、豫算

十、附帶事業

附錄別冊

其一 興亞思想研究所豫算案

其二 本、支部職制定員及分科規程案

11 11

興亞思想研究所設立計劃案

一、設立趣旨

我カ肇國ノ精神ニ淵源スル東亞新秩序ノ建設ハ全アシア甦生ノ端緒タルヘキモノナリ、然ルニ我國現勢ヲ顧ミルニ專變以來既ニ壹年有半未タ思想ハ混沌トシテ歸趨定マラス、支那亦今尙誤レル思想ニ捉ハレ其去就ニ迷フ、之ヲ統一是正シ而モ其誤レル工作ヲ打倒シ、新タナル思想的・文化的地歩ノ建設ハ刻下ノ急務ニシテ、殊ニ武力戦後ニ來ル思想戦ノ實行機關・換言スレハ思想戦參謀本部ヲ確立スルコトノ極メテ緊要事タルニ想到シ、茲ニ智能青年ヲ動員シテ之カ研究ト對策ヲ講究スルヲ要ス。

今ヤ經濟戦ハ國民生活ニ直面セル事態トシテ朝野其ノ軌ヲ一ニシ、政府亦統制下ニ國ヲ擧ケテ對策ヲ考究シ實踐勵行シ來レルニ反シ、思想戦ニ至リテハ過去ニ於ケル日本民族ハ其經驗ヲ有セス、又價值ト必

要性ヲ感知セス、從テ今日尙系統的の体系ヲ爲ササルノミカ所謂先覺者タル思想家等ノ言ハ寧ロ世ニ白眼視セラレテ單ニ個々ノ研究ト局部ノ満足ニ留マルノ實情ニアリ、然ルニ支那ニ於テハ過去二十數年ニ亘リテ國民思想ヲ歪曲助長シ、凡有機關ニ統制強化ヲ圖リテ我ニ臨ミ今次事變ヲ誘致シ其成果亦認ムヘキモノアリ、寔ニ輕視スヘカラサルハ此ノ無形ノ思想抗爭ニシテ近代戰爭ノ形態ニ於テ武力行爲ト符接シテ重要役割ヲ爲スモノナリ、而モ戰爭ノ局ヲ結フモノハ正ニ思想戰タルコトヲ吾人ハ銘セサルヘカラス、而シテ近代世界ノ歴史ハ總テ新進氣鋭青年ノ活躍ニ依リテ展開セラレ、東亞新秩序ノ建設モ亦我カ青年ノ發動ニヨリ初メテ期待シ得ヘシ。省ルニ支那ノ現狀ハ實ニ蔣介石過去十數年ノ指導ト誘掖トニヨリ活動ノ實體ハ現ニ中年層否寧ロ青年層ニ轉換セラレタリ、然ルニ維新・臨時兩政府トモ等シク老年層ヲ以テ建設セラレタル今日、歸趨ニ迷フモノハ多血有爲ノ支那青年層ニシテ今ニ

於テカ彼等ヲ剴切ニ指導セサランカ彼等ノ行ク所ハ只共產黨ノ一路アルノミ、實ニ支那ヲ救ハント欲セハ之等青年層ヲ把握スルニアリト斷言スルモ敢テ過言ニアラス日支青年ノ接觸結合コソ即チ東亞文化建設ノ要諦タリト謂フヘシ。

茲ニ興亞思想研究所ヲ設立シ之カ研究指導機關タラシメントスルノ意亦實ニ此所ニ存ス。

二、研究指導要目

- (一) 日本ニ殺到スル各種思想ノ調査研究ヲナシ之カ對策ヲ講セシム
- (二) 日本ノ進展スル爲メニ必要ナル東亞諸民族ノ思想ヲ研究シ之ヲ善導スルト共ニ統一ヲ圖ラシム
- (三) 支那人ノ誤レル思想ヲ是正シ新秩序建設ノ職務ヲ分擔セシム
- (四) アジア異民族青年ノ接觸ヲ圖リ親和提携ヲナサシメ興亞思想ノ確立ヲ圖ラシム

(五) 皇國思想ト大和民族ノ價值ヲ廣ク東亞ニ認識宣揚セシム

(六) 大陸的觀點ヨリ日本ヲ再檢討シ眞ニ日本人ノ大陸進出ノ爲メノ思想ノ調節ト啓蒙ニ資ス

三、本研究所所員ノ資格

(一) 日本皇室ニ對シ眞ニ忠誠ヲ誓フ日本青年ニシテ東亞大業完成ニ如何ナル困難ヲモ辭セサル者

(二) 人ノ爲メ世ノ爲メ犠牲トナルコトヲ辭セサル熱意ト實行力ニ富ム日本青年

(三) 前二項ニ適合セル者ハ前歴ノ如何ヲ問ハス進テ之ヲ擔容シ各々其才能ヲ發揮セシム

(四) 東洋諸民族ニシテ東亞ノ眞髓ヲ解シ新秩序建設ノ任務ヲ分擔スヘク
覺醒セル青年

四、設立要項

(一) 所 屬

本研究所以設立ノ着想ハ興亞院設立前ノモノニシテ頭初ノ思想ハ民間ノ機關トシテ財閥大會社ヨリ資金ヲ擡出センメ所員ヲシテ最モ自由ニ研究ナサシムルヲ本意トセリ然レトモ今日興亞院ノ設立ニヨリ之ヲ離レテ存在ハ許サレサルモノトスヘシ依テ茲ニ設立ニ左ノ二様式アリ

イ、設立ハ依然民間ニ委シ興亞院ノ監督下ニ置キ可成傍系的立場トシ自由ニ調査研究セシム

ロ、興亞院自体ノ一事業トシテ本趣旨ニヨリ設立ヲ實現セシム

(二) 設立豫定期日

可成早急實現ヲ要ス本年六月一日ヲ豫定期トス

(三) 籌備參考事項

イ、本研究所設立ノ前提手段トシテ既ニ漢口特務部ニ於テ「興亞青年

俱樂部」ヲ設定スルモトニ支那青年層ヲ把握スル爲メイシテリ

層ノ職員ニ指令シテ支那青年ト親交ヲ結ビ之ヲ横ニ結合シテ等比

級數式ニ同志ノ糾合ヲ圖リ談笑和合裡ニ興亞ノ宏猷ヲ理解セシメ

ントシ目下フツトボールノ學生ノ一團演劇研究ノ一團等ト握手シ

ツ、アリ

ロ、可成既成群小思想研究機關ヲ此ノ際本研究所ニ包含シ統制スル

ヲ効果的トス

ハ、設立ノ上ハ現地各特務機關若ハ駐在武官等ト密接ナル連絡ヲ保

五、名稱

チ相互實績顯彰ニ努ムルヲ便利トス

本研究所以興亞思想研究所ト稱ス

六、所在地

(一) 本部

アジア大陸ノ海岸線ニ沿ヒ思想網ヲ以テ被覆ヲ完成シ日本ニ移入
スル諸思想ニ對シテハ一ノ箇ノ役割ヲ演セシムルノ必要上本部ヲ
支那思想ノ中心地タル上海ニ設置ス

(二) 支部（四ヶ所）

目的遂行上適當ノ地ニ支部ヲ置キ必要ニ應シ之ヲ増設シ調査研究
ノ便ヲ圖ル

イ、漢口、南京（當分ニヶ所トス）

10001

四、天津、廣東（遂次設置ス未設置間ハ駐在員ヲ置ク）

(三) 駐在員

政治、思想ノ中心地ニ駐在員ヲ配置シ必要ニヨリ更ニ増加セシメ
調査連絡ニ當ラシム

(四) 駐在地（十一ヶ所）

浦鹽（不可能ノ場合ハ哈爾濱）張家口

鄭州（未占領期間ハ山西省西南部）福州、香港、河内、バンコク
夕、シンガポール、カルクッタ、ボンベイ、チライラン（ペルシヤ）

七、機 構

(一) 本研究所本部ニハ三部十課十二班支部ニハ三課五班ヲ設ケ夫々職

務ヲ分掌セシム

但シ本部調査部及支部調査課ハ適宜必要數ノ班ニ分チテ調査研究

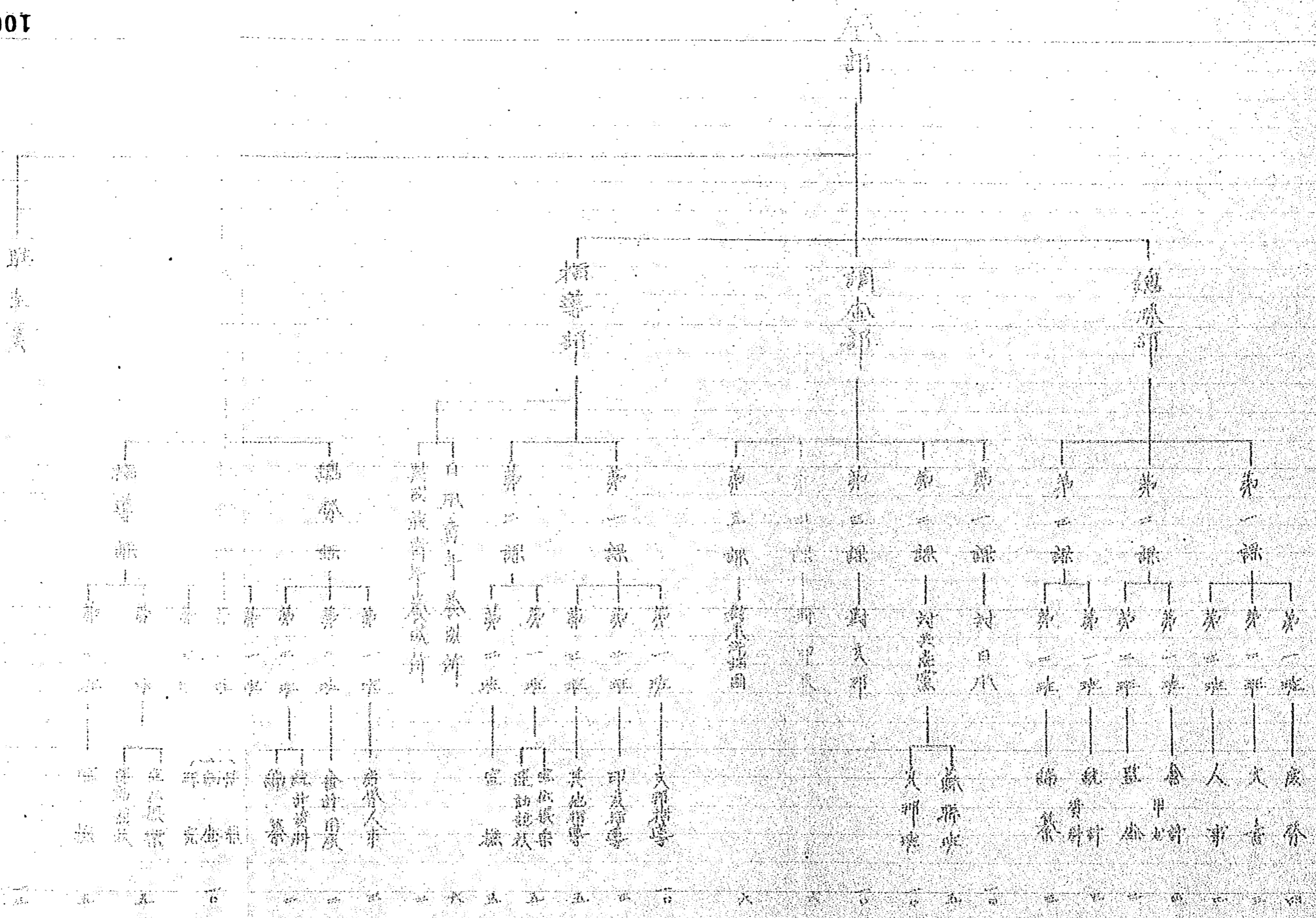
ノ便ヲ圖ルモノトス

(二) 各地駐在員ハ本部ニ直屬ス

(三) 附帶專業トシテ青年養成所ヲ設置シ本部指導部ニ隸屬セシム

(四) 本支部定員職制及分科規定ハ別ニ之ヲ定ム

(五) 機構ヲ圖表スレハ次ノ如シ



八、維持費

本研究所ノ維持費ハ概ネ左ノ方法ニ依ル

- (一) 日本各機關ノ補助金
- (二) 日本財閥ヨリノ寄附金
- (三) 東亞各種團體及有志ノ寄附金
- (四) 刊行物ノ收益金

九、豫算

本研究所ノ豫算ハ別ニ之ヲ計上ス

十、附帶事業

本研究所附帶事業トシテ日本青年養成所（甲）及異民族青年養成所（乙）ヲ設置シ指導部ヲシテ監理セシメ志士養成機關トス（名稱ハ適當ニ定ム）

(一) 目的

質實剛健國士的人物ノ養成ヲ主眼トス

(二) 入學資格

イ、國士的人物ノ推薦シタル年齢滿二十五才以下ノ青年ヨリ試験ノ上採用ス

ロ、學歷ハ中等學校卒業程度以上ノ者ニシテ係累ナク体格強健ナル者

(三) 養成人員

甲、乙共第一期ハ約三十名トシ少數人員ヲ眞劍ニ育成シ順次其ノ數ヲ増加ス

(四) 課目

但シ乙ハ當分支那人ヲ主トス

(五) 教育期間
 イ、支那語又ハ必要ナル語學
 ロ、大陸進出ニ必要ナル學科

(六) 教育期間ヲ十ヶ月トス
 卒業後ノ充當豫定

イ、本研究所指導員、駐在員
 ロ、特務機關員
 ハ、日支官公署ノ役員等

(七) 教授
 教授三名主事一名ヲ専任シ本研究所有員ヲ講師トシ必要科目ヲ教

(八) 豫算

1001

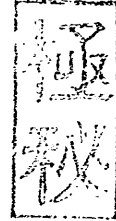
豫算ハ別ニ之ヲ計上ス

以

上

14

1008



興亞思想研究所設立計劃案附錄其一

興亞思想研究所豫算案

經費豫算案

一、豫算ノ基礎

1. 本研究所ハ特ニ人的整備ニ依リ初メテ全機能ヲ發揮シ得ヘキヲ以テ人件費ハ比較的多シ

2. 調査（牒報）研究、宣撫、宣傳等ノ爲ニ要スル工作費ハ概ネ人件費ト同額トス

3. 工作費ノ内ニ旅費ヲ算入シアルモ概シテ實費支辦ノ程度トス

4. 各國ノ雜誌、新聞、新刊圖書ヲ購入ハ特ニ必要ニ付之ヲ計上ス

5. 附帶事業トシテ實施スヘキ青年養成所ハ初年度ハ各三十名宛養成シ逐年増加セシムルモノトス

6. 設立計畫案 四、設立要項(三)第三項回、ノ經費ハ之ヲ計上セス
一、初年度所要資金

總額 三、〇六六、〇八〇圓

内譯

6001

1. 本部開設費	九六、〇〇〇圓	
2. 本部經常費	一九七、六〇〇圓	月九九、八〇〇圓
3. 青年養成所開設費	三四、〇〇〇圓	
4. 經常費	一二五、〇四〇圓	月一〇、四二〇圓
小計	四四三、六四〇圓	
5. 支部開設費	四八、四〇〇圓	
6. 經常費	五七五、〇四〇圓	月四七、九二〇圓
小計	六二三、四四〇圓	
合計	二、〇六六、〇九〇圓	
二、本部開設費		
總額	九六、〇〇〇圓	
内譯		
諸什器備品一式	五四、五五〇圓	
机、椅子	一一〇組	② 〇〇圓
		四、五六〇圓

三、本部經常費

會議用机、椅子	五〇人分	@	一四圓	七〇〇圓
書類棚	五〇個	@	四〇圓	二、〇〇〇圓
キヤビネツト	五〇個	@	一二〇圓	六、〇〇〇圓
金庫	一個			一、〇〇〇圓
タイプライター	一九臺	@	六〇〇圓	一一、四〇〇圓
應接用セツト	一五組	@	二五〇圓	三、七五〇圓
自動車	三臺	@	八、〇〇〇圓	二四、〇〇〇圓
其他一式	一一人分	@	一〇圓	一、一四〇圓
2. 参考圖書購入費	三〇			三〇〇圓
3. 人事整備費	一〇			一〇〇圓
出張旅費及赴任旅費	一			四五〇圓
4. 雜費	一			四五〇圓
計	九六			〇〇〇圓

總額 一五三、六〇〇圓 (壹ヶ月分)

内譯

1. 事務所借入費	六〇〇圓	電灯、水道、薪炭費一切
2. 事務費	七〇〇圓	文具消耗費一人當約六圓
3. 人件費	三八、一〇〇圓	
所長	一名	一、〇〇〇圓
次長	一名	九〇〇圓
總務部部員	二一名	四、三〇〇圓
課長	三名	一、三〇〇圓
部長	一名	七〇〇圓
調査部部員	六〇名	一八、〇〇〇圓
課長	五名	二、五〇〇圓
部長	一名	八〇〇圓
指導部部員	二八名	七、〇〇〇圓

四、青年養成所開設費

4. 雑給	指導部課長	二名	@ 五〇〇圓	一、〇〇〇圓
	部長	一名		八〇〇圓
				二、七〇〇圓
5. 圖書購入費	雇員	七名	@ 一〇〇圓	七〇〇圓
6. 印刷費	多イピスト	一九名	@ 八〇圓	一、五二〇圓
	備員	七名	@ 三〇圓	二一〇圓
7. 工作費	運轉手	三名	@ 九〇圓	二七〇圓
8. 雜費				六〇〇圓 諸雜費一切
9. 豫備費				一〇、〇〇〇圓
計				九九、八〇〇圓

總額 二四、〇〇〇圓

内譯

1. 諸什器備品一式 五、五〇〇圓 教授用机、書棚及寄宿舍用品一式

2. 參考圖書購入費 三、五〇〇圓 參考圖書及教授用共

3. 人事整備費 一、五〇〇圓 旅費及赴任旅費

4. 諸雜費 五〇〇圓

計 一三、〇〇〇圓

(甲)及(乙)二ヶ所分 二四、〇〇〇圓

五、青年養成所經常費

總額 一〇、四二〇圓 (壹ヶ月分)

内譯

1. 校舎及寄宿舍借入費 六〇〇圓 電灯、水道、薪炭費一切

2. 事務費 三〇圓 文具消耗費

3. 人件費 一、七五〇圓 教授三名 @五〇〇圓 一、五〇〇圓
主事一名 二五〇圓

六、支部開設費

總額 四八、四〇〇圓

內譯

諸什器備品一式 一五、六八〇圓

机、椅子 ② 三〇名 ④ 四〇圓 一、二〇〇圓

會議用机、椅子 ② 二〇名 ④ 一四圓 二八〇圓

書類棚 ② 一〇個 ④ 四〇圓 四〇〇圓

(甲)及(乙)二ヶ所分 一〇、四二〇圓

計 五、二一〇圓

8. 豫備費 四〇〇圓

7. 雜費 三〇圓

6. 養成員手當及賄費 一、八〇〇圓

5. 旅費 二〇〇圓

4. 雜給 四〇〇圓

備人 一〇名 ④ 四〇圓

一人當り手當及賄費共

② 六〇圓 ④ 三〇人分

七、支部經常費	漢口、南京二ヶ所分四八、四〇〇圓	計	二四、二〇〇圓	出張旅費及赴任旅費	
總額	四七、九二〇圓	內譯	(壹ヶ月分)		
2. 參考資料購入費	五、〇〇〇圓				
3. 人事整備費	三、〇〇〇圓				
4. 雜費	五二〇圓				
其他一式					三〇〇圓
金庫	一個		②七〇〇圓		七〇〇圓
タイヤライター	四臺		②六五〇圓		二、六〇〇圓
應接用セツト	四組		②二五〇圓		一、〇〇〇圓
自動車	一臺				八、〇〇〇圓
キヤピネツト	一〇個		②一三〇圓		一、二〇〇圓

事務所借入費		2. 事務費		3. 人件費		雑給	
電灯、水道薪炭費一切	三五〇圓	文具消耗費	二一〇圓	支部長	一名	八〇〇圓	
一人當約七圓				總務課長	一名	②一〇〇圓	
				〃 課員	七名	②二〇〇圓	
				調査課長	一名		
				〃 課員	一名	②三〇〇圓	
				指導課長	一名		
				〃 課員	一名	②二五〇圓	
				雇員	三名	②一〇〇圓	
				多イピスト	四名	②九〇圓	
				傭員	三名	②三〇圓	

5. 圖書購入費
 6. 印刷費
 7. 工作費
 8. 雜費
 9. 豫備費
 計

漢口、南京二ヶ所
 四七、九三〇圓
 三三、四六〇圓
 二、〇〇〇圓
 一〇、〇〇〇圓
 三〇〇圓
 五〇〇圓

運轉手

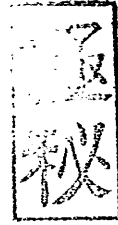
一名

@ 五〇圓

五〇圓

工作費、旅費、交通費、通信費ヲ含ム

1019



興亞思想研究所設立計劃案附錄其二

本、支部職制定員及分科規程案

興亞思想研究所本部職制定員及分科規程

第一條 本研究所ノ各部ノ定員及其ノ分科ハ當分ノ中本規程ニ依ル

第二條 本研究所ノ定員ハ別表一號ニ依ル

第三條 本研究所ニ左ノ三部ヲ置ク

一、總務部

一、調査部

一、指導部

第四條 總務部分擔事項左ノ如シ

一、機密ニ關スル事項

二、文書收發ニ關スル事項

三、所印保管ニ關スル事項

四、人事ニ關スル事項

五、會計全般ニ關スル事項

- 六、財産保管ニ關スル事項
- 七、用度ニ關スル事項
- 八、會計監査ニ關スル事項
- 九、庶務一般及他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 一〇、渉外事項

- 一一、統計ニ關スル事項
- 一二、圖書編纂ニ關スル事項

第五條 調査部分擔事項左ノ如シ

- 一、諜報ニ關スル事項
- 二、思想調査ニ關スル事項
- 三、思想研究及對策ニ關スル事項

第六條 指導部分擔事項左ノ如シ

- 一、指導ニ關スル事項
- 二、宣撫ニ關スル事項

1022

- 三、宣傳ニ關スル事項
- 四、運動競技及娛樂ニ關スル事項
- 五、青年養成所ニ關スル事項

以上

興亞思想研究所支部職制定員及分科規程

4

第一條 本研究所支部ノ定員及其ノ分科ハ當分ノ中本規程ニ依ル

第二條 本研究所支部ノ定員ハ別表ニ號ニ依ル

第三條 本研究所支部ニ左ノ三課ヲ置ク

一、總務課

一、調査課

一、指導課

第四條 總務課ノ分擔事項左ノ如シ

一、機密ニ關スル事項

二、文書收發ニ關スル事項

三、所印保管ニ關スル事項

四、人事ニ關スル事項

五、會計全般ニ關スル事項

六、財産保管ニ關スル事項

七、用度ニ關スル事項

八、庶務一般及他課ノ主管ニ屬セサル事項

九、涉外事項

一〇、統計ニ關スル事項

一一、圖書編纂ニ關スル事項

第五條 調査課分擔事項左ノ如シ

一、諜報ニ關スル事項

二、思想調査ニ關スル事項

三、思想研究及對策ニ關スル事項

第六條 指導課分擔事項左ノ如シ

一、指導ニ關スル事項

二、宣撫ニ關スル事項

三、宣傳ニ關スル事項

1024

四、運動競技及娛樂ニ關スル事項

以上

別表 壹號

本部定員數

一、所長	一名			
一、次長	一名			
一、總務部	一名			
部長	一名	第一課	第一班	四名
課長	三名		第三班	三名
課員	十一名		第三班	二名
		第二課	第一班	四名
			第二班	二名

一、調査部

部長 一名

課長 五名

第三課

第一班

三名

第一課

對日本

一名

第二課

對共產黨

一名

對蘇聯班

一名

第三課

對支那

一名

第四課

對印度

六名

第五課

對東洋諸國

六名

駐在員

一名

三名

一、指導部

部長 一名

課長 二名

1028

一、定員通計

所長	一名
次長	一名
部長	三名
課長	一〇名
課員	一四名
雇員	二六名

内イピヌト 九名

計 三部 一〇課 一三班

課員	二八名
第一課	第一班 一〇名
第二課	第二班 三名
第三課	第三班 三名
第一班	五名
第二班	五名
第三班	五名

	備員	七名
	運轉手	三名
	計	三六五名
一、青年養成所（一ヶ所宛）		
一、教授	三名	
一、主事	一名	
一、備人	一〇名	
計		一四名

1030

別表 二號

支部定員數

一、支部長 一名

一、總務課

課長 一名

課員 七名

第一班

三名

第二班

二名

第三班

二名

一、調査課

課長 一名

課員 一〇名

第一班

第二班

第三班

一、指導課

課長	一名
課員	一〇名
第一班	五名
第二班	五名

計 三課 五班

一、定員通計

支部長	一名
課長	三名
課員	三七名
雇員	七名
内多イピスト	四名
備人	三名
運轉手	一名
計	四二名